

ユダヤルーツ: 反対側から見た責任

2010年6月9日 アシェル・イントレーター

私たちメシアニックジューはユダヤルーツ、特にローマ 11 章から何千もの教えをしてきました。この章でサウロ(パウロ)はイタリア人クリスチャン集団にユダヤ人との契約的、霊的なつながりの重要性について述べています。アーメン。

最近、私がこのみことばの反対側から見た意味合いについて黙想してきました。もしサウロが私たちに向かって述べた場合はどういう意味になるだろうかと。彼は諸国の教会にメシアニックジューの残りの人々(レムナント)を通してイスラエルにつながることを強く促しており、そうすると責任はメシアニックジューの残りの人々が教会につながることにあり、ということになります。

ローマ 11:18 「あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。」

多くの場合、私たちがローマ 11 章を教える時、祈りの支援、資金面での支援、そして教会からのボランティア支援を得るために操作的なやり方を用いてきました。しかし、私たちは彼らに対して支援すべきであると召命されています。これは、メシアニックジューの共同体にとってパラダイムの大幅な変更を強いるものなのです。私たちの信仰を結集し、祈り、与えること、そして励ましによって諸国の信仰共同体を支援しようではありませんか。

ローマ 11:17 「もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら(後略)」

このみことばによると、私たちメシアニックジューは世界中の信者集団に対して霊的な生活、ビジョン、信仰、愛、啓示、契約、預言そして御国の真実について与えなければならないことになります。私たちの態度は受け取るのではなく、与えなければならないのです。私たちは他者の資源となるために聖霊に十分満たされなければなりません。私たちは寄生虫としてではなく、霊的な生活を提供しなければなりません。

ローマ 11:16 「根が聖ければ、枝も聖いのです。」

メシアニック運動は諸国の教会に対して聖、純粹、高潔、忠実、献身、謙遜、そして公正さの源として召命されているのです。しかし、私たちは現世的であるための言い訳をしすぎているのです。すなわち、聖性に欠けることを隠すために伝統を用いてきたのです。私たちは役割を拾い上げ、ミニストリーの行商をするのではなく、より大きな信仰共同体に対して倫理的な価値観や動機の純粹さを回復させようではありませんか。私たちが教会に対して聖化の影響を与えられるようになろうではありませんか。

私たちの召命そのものはアブラハムの神との契約から始まり、それは諸国への祝福となる、というものでした(創世記 12:3)。私たちは民数記 6 章のアロンの祝祷から祝福するだけでなく、ヨハネ 17 章のイエシュアによる大祭司の祈りによって祝福したいと思います。世界宣教の大宣教命令は第一世紀のメシアニック共同体の動機でした。それは現代において私たちの目標とすべきであり、自分たちだけをするのではなく、どこにいても同じ事をすべきだと信者たちを動機付けることにあります。

選ばれた民であるということは、彼らから受け取るという特権があるだけではなく、国々や諸国の教会に対して責任があるのです。私たちは神が意図された私たちのあるべき姿、祝福となれるようにしようではありませんか。

なぜ封鎖するのか

イスラエルがガザを封鎖する理由は一つしかありません。武器が密輸されハマスの手に渡ることを防ぐためです。

人道支援のために封鎖を突破するという主張は筋が通りません。支援や物資が船舶やトラックによって毎日何トンもガザに運ばれていることは、イスラエル政府が公に認めていることだからです。

この船団が「ガザに自由を」を求める理由は一つしかありません。封鎖を突破して武器を密輸できるようにするためです。

ハマスがイスラエルの完全な破壊を呼びかけ、イスラエルとの永続的な戦争状態に入っていることを思い起こす必要があるかと思います。ハマスはガザの支配政党として選ばれており、和平協定あるいは安全保障の調停が結ばれるまで、イスラエルはガザに武器を運び入れることを阻止することしか選択肢がないのです。

さらに、イスラエルが 2005 年にガザからすべてのユダヤ人入植者を撤退させたのに対し、この運動を「ガザに自由を」と呼ぶのは奇妙なことです。

先週の船団の攻撃はイスラエルによるものではなく、まったくその反対です。この侵入計画はトルコ政府、聖戦組織、そして左翼過激派によって企てられたものなのです。

若いイスラエル人兵士(18歳以上から20代前半の青年たちで、ペイントボール弾用の銃を持って船に乗り込んだ)は、彼らに対するリンチによって殺されなかったのは奇跡でした。

船団に対するいくつかのウェブ上の反応や、情報元について:

The StandWithUs(我々と共に立つ)組織は最近の事件についてウェブサイトを立て、関連のある事実やメディア情報について集めています。とりわけ、ユーチューブ上に掲載されているネタニヤフ首相の反応についてご覧になるようご提案します。こちらをクリックして下さい。

www.flotillafacts.com (英語)

ここに、船団の船に乗り込んだ左翼活動家とイスラム聖戦主義者の協力という、おもしろく、かつ、皮肉を込めたミュージカルパロディが掲載されています。とても短いですが(4:57) 興味深い映像です。Latma TV のもので、タイトルは「我々は人々を騙す」です。

<http://www.youtube.com/watch?v=qQ66qEl-fqo&feature=channel>

(現在著作権申し立ての訴えにより、この映像は削除されています)

エルサレムポストに船団の船に乗り込んだ時にリンチや銃撃を受けそうになったイスラエル海軍の小隊長のインタビューが掲載されています。これは直接情報であり、読むに値するものです。

<http://www.jpost.com/イスラエル/Article.aspx?id=177445> (英語)

ここに、国連人権委員会での、ヒレル・ニューヤー氏の洞察に満ちたプレゼンテーションの映像があります(4:30)。プレゼンテーション後半で、委員長の驚くべき反応をご覧下さい。

<http://www.youtube.com/watch?v=obUhOcTSD1I> (英語)

ここに、ワシントンポスト紙のベテラン・コメンテーターであるチャールズ・クラウサマー氏の、封鎖の正当性と、それを破壊しようとする背後の目的についての記事をお知らせします。

<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/06/03/AR2010060304287.html> (英語)